

# 秋の新着図書

## いきていてこそ／堀江 菜穂子

脳性まひとたたかう22歳の“声なき詩人”、堀江 菜穂子さん。寝たきりの生活を送りながら、わずかに動くゆびさきを使って「筆談」で紡がれる彼女の言葉にいま、心励まされ、勇気づけられる人があとを絶ちません。どうぞ大切な方と一緒に、あるいは自分自身の心と静かに向き合いながら、堀江菜穂子の詩の世界に触れてみてください。

## 今こそ、韓国に謝ろう／百田 尚樹

百田尚樹、涙ながらの大謝罪！「ついに転向したのか、百田さん!？」日韓のあいだに横たわる、あらゆる問題を網羅した渾身の書き下ろし。あんなにややくしく見えた両国関係を、誰でもサカサカ読めて納得できる筆致で料理した、爆笑必至のまったく新しい「韓国論」。この一冊で日韓問題は完全に解決する。驚きの一冊！1000年以上かけなければならない文明の進化を30年程度で一気に駆け抜けさせて、すみません。お詫びに今後一切韓国との交流は断ちたいと思います。最終的かつ完全かつ不可逆的にさようなら！！

## この世の春 上・下／宮部 みゆき

小説史に類を見ない、息を呑む大仕掛け。そこまでやるか、ミヤベ魔術！それは亡者たちの声？それとも心の扉が軋む音？正体不明の悪意が怪しい囁きと化して、かけがえのない人々を蝕み始めていた。目鼻を持たぬ仮面に怯え続ける青年は、恐怖の果てにひとりの少年をつくった。悪が幾重にも憑依した一族の救世主に、この少年はなりうるのか。21世紀最強のサイコ&ミステリー、ここに降臨！

## 女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと

／西原 理恵子

王子様を待たないで。お寿司も指輪も自分で買おう。「エクソダス」というのは、聖書の「出エジプト記」に記された言葉で、多くの人たちが国境を越えて脱出すること。もし自分が抜け出せなかったとしても、女たちは、次の世代に、希望を託してきた。せめて子どもには、今の自分より、少しでも幸せな人生をあげたい。それって、代々、ちょっとずつ、ちょっとずつ、糸をつむぐように、女から女へ橋渡しされてきた希望の種なんだと思うんです。今の場所が最低だと思うなら、そこを抜け出す戦略を立てる。それだけは、どうかやめないで——。人生に向き合い、幸せを自分で取りに行くための、厳しくもハートフルな生き方指南。

## 石、転がるといたらええやん。／岸田 繁

音楽誌『ロッキング・オン・ジャパン』で11年続くエッセイが初の書籍化！バンドのこと、音楽のこと、電車のこと、京都のこと、酒に珍味にコモドオオカゲのことまで、岸田繁的思想の欠片がこの一冊に。

## パーマネント神喜劇／万城目 学

「あなたの願い、叶えてあげる」こんな神様、信じていいの——！？デートの途中、突然時が止まった。動かない街に現れたのは、「神」と名乗る見慣れない二人の男。ペラペラまくしたてる二人に肩を叩かれ戻った世界は、あれ、何かが違う…。？面白さ、神話級！！アヤシげな「神様」に願いを託し、叶えたり振り回されたりする人たちの、わちゃわちゃ神頼みエンターテインメント。

## ボクたちはみんな大人になれなかった／燃え殻

17年前、渋谷。大好きだった彼女は別れ際、「今度CD持ってくるからね」と言った。それがボクたちの最終回になった。17年後、満員電車。43歳になったボクは、人波に飲まれて、知らないうちにフェイスブックの「友達申請」を送信してしまっていた。あの最愛の彼女に、とっくに大人になった今になって、夢もない、金もない、手に職もない、二度と戻りたくなかったはずの“あの頃”が、なぜか最強に輝いて見える。一。各界で“オトナ泣き”続出。

## 潔白／青木 俊

札幌地検に激震が走った。30年前に小樽で発生した母娘惨殺事件に前代未聞の再審請求が起こされたのである。すでに執行済みの死刑が、もし誤判だったら、国家は無実の人間を殺めたことになってしまう。「何としても握り潰せ！」担当に指名されたのは、日く付きの検事。司法の威信を賭けた攻防の行方は…。

## 敵の名は、宮本武蔵／木下 昌輝

七人の敗者たちから描く、剣聖の真の姿。かつてない宮本武蔵像が誕生した。剣聖と呼ばれた男の真の姿とは一。自らの命と引き替えに、その強さを知った一剣聖と呼ばれた男の真の姿とは一。七人の敗者たちから描く、著者渾身の最新歴史小説。

## 影裏／沼田 真佑

大きな崩壊を前に、目に映るものは何か。北緯 39 度。会社の出向で移り住んだ岩手の地で、ただひとり心を許したのが、同僚の日浅だった。ともに釣りをした日々募る追憶と寂しさ。いつしか疎遠になった男のもう一つの顔に、「あの日」以降、触れることになるのだが…。樹々と川の彩りの中に、崩壊の予兆と人知れぬ思いを繊細に描き出す。第 157 回芥川賞受賞作。

## 月の満ち欠け／佐藤 正午

新たな代表作の誕生！20年ぶりの書き下ろし。あたしは、月のように死んで、生まれ変わる——。目の前にいる、この七歳の娘が、いまは亡き我が子だということか？三人の男と一人の少女の、三十余年におよぶ人生、その過ぎし日々が交錯し、幾重にも織り込まれてゆく。この数奇なる愛の軌跡よ！さまよえる魂の物語は、戦慄と落涙、衝撃のラストへ。第 157 回直木賞受賞作。

## プラタモリ (5) ~ (8) / NHK「プラタモリ」制作班

本編では語り切れなかったエピソードや、ロケの撮影風景の特別写真、街歩きに便利な地図などを多数収録。旅のお供に歴史を感じながら散策してはいかがでしょう？

- プラタモリ(5)  
札幌 小樽 日光 熱海 小田原
- プラタモリ(6)  
松山 道後温泉 沖縄 熊本
- プラタモリ(7)  
京都(嵐山・伏見) 志摩 伊勢(伊勢神宮・お伊勢参り)
- プラタモリ(8)  
横浜 横須賀 会津 会津磐梯山 高尾山

## 鳥類学者だからって、鳥が好きだと思うなよ。／川上 和人

鳥類学者に必要なのは、一に体力、二に体力、三、四がなく、五に体力?!出張先は、火山に、ジャングル、無人島…!?耳に飛び込む巨大蛾、襲い来るウツボとの闘い、吸血カラスを発見したのに、なぜか意気消沈し、空飛ぶカタツムリに想いを寄せ、増え続けるネズミ退治に悪戦苦闘する——。アウトドア理系「鳥類学者」の知られざる毎日は、今日も命がけ！

## 星の子／今村 夏子

物語の語り部「わたし」は中学3年生、林ちひろ。ちひろは未熟児で生まれ、生後半年目には原因不明の湿疹に苦しむ。両親は医者で薦める薬やあらゆる民間療法を試したが、効果はない。困り果てた父親は、勤務先の同僚がくれた「金星のめぐみ」という水を持ち帰り、助言どおりちひろの体を洗う。すると、ちひろの夜泣きが減り、2か月目には全快したのだった。これを機に、両親は水をくれた同僚が所属する新興宗教にはまっていく。父親は会社を辞めて教団の関連団体に入り、母親は怪しい聖水をひたしたタオルを頭にのせて暮らすようになる。叔父が忠言しても両親は聞き入れず、家は転居するたびに狭くなり、ちひろより5歳年上の姉は家出する。将来がちらつく中学3年生になると、ちひろにも変化が訪れる。

## 表参道のセレブ犬とカバーニャ要塞の野良犬／若林 正恭

オードリー若林、東京から楽園キューバへ逃亡を図る！キューバはよかった。そんな旅エッセイでは終わらない。間違いなく若林節を楽しんでもらえる、そして最後はホロリと泣ける、待望の書き下ろしエッセイです。

## R帝国／中村 文則

舞台は近未来の島国・R帝国。ある日、矢崎はR帝国が隣国と戦争を始めたことを知る。だが、何がおかしい。国家を支配する絶対的な存在“党”と、謎の組織“L”。やがて世界は、思わぬ方向へと暴走していく。世界の真実を炙り出す驚愕の物語。

## 神の涙／馳 星周

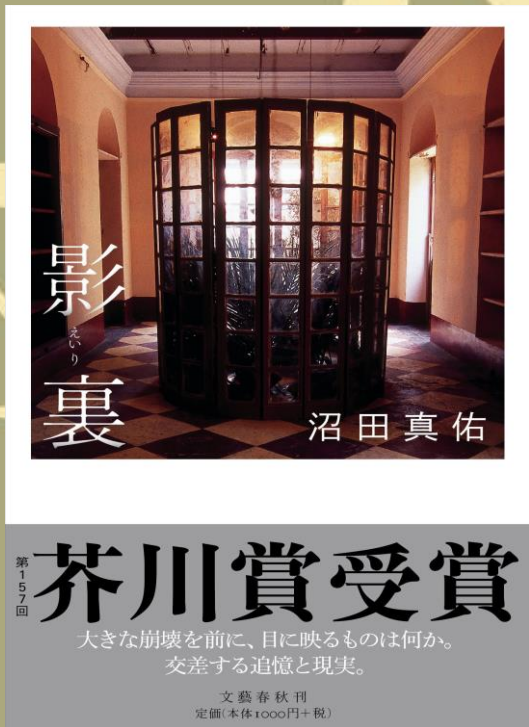
北海道東部に位置する屈斜路湖。アイヌの木彫り作家・平野と中学3年生の孫娘・悠の家に、尾崎と名乗る若い男が訪ねてきた。「弟子にしてください」と懇願。初めは煙たがられていたが、平野から木彫りを教わり、山に入るようになる。ある日、事件が起こる。自然を尊んで生きる平野、アイヌから逃げ出したい悠、自らの原点を探す尾崎。故郷とは、家族とは、今を生きることは…。号泣必至の衝撃作！感動の自然サスペンス！怒り、殺人、逃亡の果て、男はアイヌの地でなにを見たのか——



# 注目図書

## 影裏

沼田 真佑



## 月の満ち欠け

佐藤 正午



大きな崩壊を前に、目に映るものは何か。交差する追憶と現実。

縁のない土地でただひとり心を許せる友人だと思っていた男が、次第に別の顔を見せ始める――。

北緯 39 度。会社の出向で移り住んだ岩手の地で、ただひとり心を許したのが、同僚の日浅だった。ともに釣りをした日々にもつ追憶と寂しさ。いつか疎遠になった男のもう一つの顔に、「あの日」以降、触れることになるのだが…。

投げかけられた光が必ず影を生むように、言葉をあてがった瞬間にはみ出してしまう者もいる。マイノリティーが本来立っている場所を静謐(せいひつ)かつ繊細に綴りあげた、素晴らしい作品の誕生を寿ぎたい。

樹々と川の彩りの中に、崩壊の予兆と人知れぬ思いを繊細に描き出す。

第157回芥川賞受賞作品。

あたしは、月のように死んで、生まれ変わる――。

世の中には前世を記憶している(としか思えない)子どもたちがいるという。彼や彼女はあの日、語りはじめる。知るはずのない過去について。行ったことのない場所について。人は何度も生まれ変わるといふ輪廻転生の現象。これがこの小説の中心を貫くモチーフなのだ。最初の異変は、小山内堅の娘・瑠璃の上で起きた。7歳の秋、高熱を出した後に彼女は変わった。急に大人びた表情を見せ、黛ジユンの歌を歌い、デュボンのライターを見つけた。「あの子は知るはずのない昔のことを知ってるし、そのことを隠そうとする。」

三人の男と一人の少女の、三十余年におよぶ人生、その過ぎし日々が交錯し、幾重にも織り込まれてゆく。この数奇なる愛の奇跡！戦慄と落涙、衝撃のラストへ！

第157回直木賞受賞作品。

## 表参道のセレブ犬とカバーニャ要塞の野良犬 若林 正恭



## 女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと 西原 理恵子



オードリー若林、東京から楽園キューバへ逃亡を図る！

「勝っても負けても居心地が悪い」「いつでもどこでも白々しい」。

著者が吐き出した社会への違和感。それは、「競争しなきゃ生きていけないシステム上での、悩みに過ぎなかったのではないかと気がついた。それなら経験したことのないシステムで生きている人たちに会おうと、一念発起、キューバへ旅立ちます。そこでみてきた、社会、人間の生き方、感性、キューバを旅しながら感じたことを書き下ろしたエッセイです。旅の話だけでなく、自分が暮らす街やこれからの生き方を、皮肉も交えて語る著者の独特の視点は、クスッと笑えるのですが、よみ終えたあと胸がじんわりとなります。

長寿国の日本では、命を“使う”というより“延ばす”イメージがある。それほど成熟した社会に生きているからこそ命を使う人間でありたい――著者の誓いに共感が広がる。

王子様を待たないで。お寿司も指輪も自分で買おう。

「エクソダス」というのは、聖書の「出エジプト記」に記された言葉で、多くの人たちが国境を越えて脱出すること。もし自分が抜け出せなかったとしても、女たちは、次の世代、また次の世代に、希望を託してきた。せめて子どもたちには、今の自分より、少しでも幸せな人生をあげたい。それって、代々、ちよとずつ、ちよとずつ、糸をつむぐように、女から女へ橋渡しされてきた希望の種なんだと思うんです。今の場所が最低だと思えば、そこを抜け出す戦略を立てる。それだけは、どうかやめないで――。大きな帆をあげて、水平線へと漕ぎ出していこうとする娘を見送る母が、今だからこそ、伝えておきたい大事な事。人生という航路に絶対安全はないからこそ、知っておいてほしい。厳しくもハートフルな生き方指南。